

# 第2編 材 料 編

## 第1章 一般事項

### 第1節 適用

1. 工事に使用する材料は、**設計図書**に品質規格を特に明示した場合を除き、この共通仕様書に示す規格に適合したもの、又はこれと同等以上の品質を有するものとする。ただし、監督員が**設計図書**に関して**承諾**した材料及び**設計図書**に明示されていない仮設材料については除くものとする。
2. 共通仕様書に規定されていない材料については、JIS規格に適合したもの、又はこれと同等以上の品質を有するものでなければならない。

### 第2節 工事材料の品質及び検査（確認を含む）

1. 請負者は、工事に使用する材料の品質を証明する資料を請負者の責任において整備、保管し、検査時まで監督員へ**提出**するとともに、監督員の請求があった場合は、遅滞なく**提示**しなければならない。
2. 約款第13条第1項に規定する「中等の品質」とは、JIS規格に適合したもの又は、これと同等以上の品質を有するものをいう。
3. 請負者は、**設計図書**において試験を行うこととしている工事材料について、JIS又は**設計図書**で**指示**する方法により、試験を行わなければならない。そして、材料試験の結果を監督員に提出して合否の判定を受け、不合格と判定された材料を使用してはならない。
4. 請負者は、**設計図書**において指定された工事材料については、この材料を使用する前に、必ず見本又は、品質を証明する資料を監督員に**提出**しなければならない。
5. 請負者は、工事材料を使用するまでにその材質に変質が生じないように、これを保管しなければならない。なお、材質の変質により工事材料の使用が、不適当と監督員から**指示**された場合には、これを取り替えるとともに、新たに搬入する材料については、再検査（又は**確認**）を受けなければならない。
6. 請負者は、表1－1の工事材料を使用する場合には、その外観及び品質規格証明書等を照合して**確認**した資料を事前に監督員に**提出**し、監督員の**確認**を受けなければならない。

表1－1 指定材料の品質確認一覧

区 分	確 認 材 料 名	摘 要
鋼 材	構造用圧延鋼材	
	プレストレストコンクリート用鋼材 （ポストテンション）	
	鋼製ぐい及び鋼矢板	仮設材は除く
セメント及び混和材	セメント	JIS製品以外
	混和材料	JIS製品以外
セメント コンクリート製品	セメントコンクリート製品一般	JIS製品以外
	コンクリート杭、コンクリート矢板	JIS製品以外
塗 料	塗料一般	
そ の 他	レディーミクストコンクリート	JIS製品以外

	アスファルト混合物	
	場所打ぐい用 レディー ミ ク ス ト コンクリート	JIS製品以外
	薬液注入材	
	種子・肥料	
	薬剤	
	現場発生品	

注) 「JIS 製品以外」とは以下のとおり

- ①JIS マーク表示認証工場でない工場で製造された製品
- ②JIS マーク表示認証工場であってもJIS 規格以外で製造する製品

※上記のほか，必要に応じて適宜追加する。

## 第2章 土木工事材料

### 第1節 土

#### 2-1-1 一般事項

工事に使用する土は、**設計図書**における各工種の施工に適合するものとする。

### 第2節 石

#### 2-2-1 一般事項

工事に使用する石材は用途に適する材質で有害な風化及び亀裂等の欠陥のないものでなければならない。

#### 2-2-2 石材

天然産の石材については、以下の規格に適合するものとする。

JIS A 5003 (石材)

#### 2-2-3 割ぐり石

割ぐり石は、以下の規格に適合するものとする。

JIS A 5006 (割ぐり石)

#### 2-2-4 割石

割石は、全面割肌を有し、面の計上はほぼ長方形であって、控えは二方落としとし、面に直角に測った控えの長さは面の最小辺の1.2倍以上のものでなければならない。

#### 2-2-5 間知石

面が原則としてほぼ方形に近いもので、控えは四方落としとし、面に直角に測った控えの長さは、面の最小辺の1.2倍以上のものであること。

#### 2-2-6 雑割石

雑割石の形状は、概ねくさび形とし、うすっぺらなもの及び細長いものであってはならない。前面は概ね四辺形であって二稜辺の平均の長さが控長の2/3程度のものとする。

#### 2-2-7 雑石（粗石）

雑石は、天然石又は破砕石ものとし、うすっぺらなもの及び細長いものであってはならない。

#### 2-2-8 玉石

玉石は、天然に産し、丸みをもつ石で通常概ね15cm～25cmのものとし、形状は概ね卵体とし、表面が粗雑なもの、うすっぺらなもの及び細長いものであってはならない。

#### 2-2-9 ぐり石

ぐり石は、堅硬質な天然石又は破砕石で20cm以下の小さいものとし、主に基礎・裏込ぐり石に用いるものであり、うすっぺらなもの及び細長いものであってはならない。

#### 2-2-10 捨石、被覆石

1. 捨石及び被覆石の形状は、極端に扁平なもの及び細長いものでなく、風化凍解のおそれがないのでなければならない。
2. 石の種類は花こう岩、安山岩類、砂岩類、凝灰岩類又はこれらに準ずるものとし、比重2.5以上、圧縮強さ500kg/cm<sup>2</sup>以上でなければならない。

3. 石の重量は、規定重量の±20%以内でなければならない。かつ、所定数量の80%以上が規定重量の範囲内でなければならない。
4. 請負者は、施工に先立ち、使用する石の種類及び比重について試験成績表を提出するとともに、見本を監督員に提示し承諾を得なければならない。
5. 捨石及び被覆石の規格は表 2－1 を標準とする。

**表 2－1 捨石及び被覆石の規格の標準**

種類	名称	規格	控長	許容範囲
捨 石	1 ～ 5kg	1 ～ 5kg	—	粒度は上限又は下限に片寄らないものとする。
	1 ～200kg	1 ～ 200kg	—	
	10 ～200kg	10 ～ 200kg	—	
	200 ～400kg	200 ～ 400kg	—	
被覆石	200kg	200 ～ 400kg	50cm	控長の許容範囲は－20%以内とする。
	400kg	400 ～ 600kg	60cm	
	600kg	600 ～1,000kg	70cm	
	1,000kg	1,000 ～2,000kg	85cm	
	2,000kg	2,000 ～3,000kg	100cm	

## 2-2-11 その他の砂利、碎石、砂

1. 砂利、碎石の粒度、形状及び有機物含有量は、この仕様書における関係条項の規定に適合するものとする。
2. 砂の粒度及びごみ・どろ・有機不純物等の含有量は、この仕様書における関係条項の規定に適合するものとする。

## 第3節 骨材

### 2-3-1 一般事項

1. 道路用碎石、コンクリート用碎石及びコンクリート用スラグ粗（細）骨材は、以下の規格に適合するものとする。  
JIS A 5001（道路用碎石）  
JIS A 5005（コンクリート用碎石及び砕砂）  
JIS A 5011-1（コンクリート用スラグ骨材（高炉スラグ骨材））  
JIS A 5011-2（コンクリート用スラグ骨材（フェロニッケルスラグ骨材））  
JIS A 5011-3（コンクリート用スラグ骨材（銅スラグ骨材））  
JIS A 5011-4（コンクリート用スラグ骨材（電気炉酸化スラグ骨材））  
JIS A 5015（道路用鉄鋼スラグ）  
JIS A 5021（コンクリート用再生骨材H）
2. 請負者は、骨材を寸法別及び種類別に貯蔵しなければならない。
3. 請負者は、骨材に有害物が混入しないように貯蔵しなければならない。
4. 請負者は、粒度調整路盤材等を貯蔵する場合には、貯蔵場所を平坦にして清掃し、できるだけ骨材の分離を生じないようにし、貯蔵敷地面全面の排水を図るようにしなければならない。
5. 請負者は、水硬性粒度調整鉄鋼スラグ、細骨材、又は細粒分を多く含む骨材を貯蔵する場合に、防水シートなどで覆い、雨水がかからないようにしなければならない。

6. 請負者は、石粉、石灰、セメント、回収ダスト、フライアッシュを貯蔵する場合に、防湿的な構造を有するサイロ又は倉庫等を使用しなければならない。
7. 細骨材として海砂を使用する場合は、細骨材貯蔵設備の排水不良に起因して濃縮された塩分が滞留することのないように施工しなければならない。
8. プレストレストコンクリート部材に細骨材として海砂を使用する場合には、シース内のグラウト及びプレテンション方式の部材の細骨材に含まれる塩分の許容限度は、原則として細骨材の絶乾質量に対しNaClに換算して0.03%以下としなければならない。

## 2-3-2 セメントコンクリート用骨材

1. 細骨材及び粗骨材の粒度は、表2-2、3の規格に適合するものとする。

**表2-2 無筋・鉄筋コンクリート、舗装コンクリート、プレパックドコンクリートの細骨材の粒度の範囲**

### (1) 無筋・鉄筋コンクリート、舗装コンクリート

ふるいの呼び寸法(mm)	ふるいを通るものの重量百分率(%)
10	100
5	90 ～ 100
2.5	80 ～ 100
1.2	50 ～ 90
0.6	25 ～ 65
0.3	10 ～ 35
0.15	2 ～ 10 [注1]

[注1] 砕砂あるいはスラグ細骨材を単独に用いる場合には、2～15%にしてよい。混合使用する場合で、0.15mm通過分の大半が砕砂あるいはスラグ細骨材である場合には15%としてよい。

[注2] 連続した2つのふるいの間の量は45%を超えないのが望ましい。

[注3] 空気量が3%以上で単位セメント量が250kg/m<sup>3</sup>以上のコンクリートの場合、良質の鉱物質微粉末を用いて細粒の不足分を補う場合等に0.3mmふるい及び0.15mmふるいを通るものの質量百分率の最小値をそれぞれ5及び0に減らしてよい。

### (2) プレパックドコンクリート

ふるいの呼び寸法 (mm)	ふるいを通るものの重量百分率(%)
2.5	100
1.2	90 ～ 100
0.6	60 ～ 80
0.3	20 ～ 50
0.15	5 ～ 30

**表2-3 無筋・鉄筋コンクリート、舗装コンクリート、プレパックドコンクリートの粗骨材の粒度の範囲**

### (1) 無筋・鉄筋コンクリート、舗装コンクリート

ふるいの呼び 寸法(mm) 粗骨材の 大きさ(mm)	ふるいを通るものの質量百分率 (%)											
	100	80	60	50	40	30	25	20	15	10	5	2.5
50— 5	—	—	100	95～ 100	—	—	35～ 70	—	10～ 30	—	0～ 5	—
40— 5	—	—	—	100	95～ 100	—	—	35～ 70	—	10～ 30	0～ 5	—
30— 5	—	—	—	—	100	95～ 100	—	40～ 75	—	10～ 35	0～ 10	0～ 5
25— 5	—	—	—	—	—	100	95～ 100	—	30～ 70	—	0～ 10	0～ 5
20— 5	—	—	—	—	—	—	100	90～ 100	—	20～ 55	0～ 10	0～ 5
15— 5	—	—	—	—	—	—	—	100	90～ 100	40～ 70	0～ 15	0～ 5
10— 5	—	—	—	—	—	—	—	—	100	90～ 100	0～ 40	0～ 10
50—25 <sup>1)</sup>	—	—	100	90～ 100	35～ 70	—	0～ 15	—	0～ 5	—	—	
40—20 <sup>1)</sup>	—	—	—	100	90～ 100	—	20～ 55	0～ 15	—	0～ 5	—	
30—15 <sup>1)</sup>	—	—	—	— 2 —	100	90～ 100	—	20～ 55	0～ 15	0～ 10	—	

[注] これらの粗骨材は、骨材の分離を防ぐために、粒の大きさ別に分けて計量する場合に用いるものであって、単独に用いるものではない。

### (2) プレパックドコンクリート

最小寸法	15mm以上。
最大寸法	部材最小寸法の1/4以下かつ鉄筋コンクリートの場合は、鉄筋のあきの1/2以下。

2. 硫酸ナトリウムによる安定性の試験で、損失質量が品質管理基準の規格値を超えた細骨材及び粗骨材は、これを用いた同程度のコンクリートが、予期される気象作用に対して満足な耐凍害性を示した実例がある場合には、これを用いてよいものとする。また、これを用いた実例がない場合でも、これを用いてつくったコンクリートの凍結融解試験結果から満足なものであると認められた場合には、これを用いてよいものとする。
3. 気象作用を受けない構造物に用いる細骨材は、本条2項を適用しなくてもよいものとする。
4. 化学的あるいは物理的に不安定な細骨材及び粗骨材は、これを用いてはならない。ただし、その使用実績、使用条件、化学的あるいは物理的安定性に関する試験結果等から、有害な影響をもたらさないものであると認められた場合には、これを用いてもよいものとする。
5. すりへり試験を行った場合のすりへり減量の限度は、舗装コンクリートの場合は35%以

下とする。なお、積雪寒冷地においては、すりへり減量が25%以下のものを使用するものとする。

6. 有害物含有量の限度は、表2-4、5の規格に適合するものとする。

**表2-4 細骨材の有害物含有量の限度（質量百分率）**

		無筋，鉄筋 コンクリート	舗装 コンクリート	ダム コンクリート
粘土塊		1.0 <sup>1)</sup>	1.0	1.0 <sup>1)</sup>
微粒分量 %	コンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合	3.0 <sup>2)</sup>	3.0 <sup>2)</sup>	3.0 <sup>2)</sup>
	その他の場合	5.0 <sup>2)</sup>		5.0 <sup>2)</sup>
石炭，亜炭等で 比重1.95の液体 に浮くもの	コンクリートの外観が 重要な場合	0.5 <sup>3)</sup>	0.5	0.5
	その他の場合	1.0 <sup>3)</sup>		
塩化物(塩化物イオン量)		0.02 <sup>4)</sup>	0.02 <sup>4)</sup>	0.02 <sup>4)</sup>

1) 試料は、JIS A 1103（骨材の微粒分量試験方法）による骨材の微粒分量試験を行った後にふるいに残存したものを用いる。

2) 砕砂及びスラグ細骨材の場合で、舗装版及びコンクリートの表面がすりへり作用をうけるものについては、微粒分量試験で失われるものの量の限度は5%とする。

3) スラグ細骨材には適用しない。

4) NaCl換算では0.03%になる。

**表2-5 粗骨材の有害物含有量の限度（質量百分率）**

		無筋，鉄筋 コンクリート	舗装 コンクリート	ダム コンクリート
粘土塊		0.25 <sup>1)</sup>	0.25	0.25
やわらかい石片			5.0	5.0
微粒分量 %		1.0 <sup>2)</sup>	1.0 <sup>2)</sup>	1.0 <sup>2)</sup>
石炭，亜炭等で 比重1.95の液体 に浮くもの	コンクリートの外観が 重要な場合	0.5 <sup>3)</sup>	0.5 <sup>3)</sup>	1.0
	その他の場合	1.0 <sup>3)</sup>		

1) 試料は、JIS A 1103（骨材の微粒分量試験方法）による骨材の洗い試験をおこなった後にふるいに残存したものから採取する。

2) 碎石の場合で、洗い試験で失われるものが碎石粉であるときは、最大値を1.5%にしてもよい。また、スラグ粗骨材の場合は、最大を5.0%としてよい。

3) 高炉スラグ粗骨材には適用しない。

7. 細骨材に含まれる有機不純物質の試験では、試料となる砂の上部における液体の色が標準色液の色より淡いものとする。

8. 細骨材に含まれる有機不純物の試験で、試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色よりも濃い場合でも、その砂で作ったモルタル供試体の圧縮強度が、その砂を水酸化ナトリウムの3%溶液で洗い、さらに水で十分に洗って用いたモルタル供試体の圧縮強度の90%以上であれば、その砂を用いてもよいものとする。なお、モルタルの圧縮強度による砂の試験は、JIS A 5308（レ

ディーミクストコンクリート)の付属書3の規定によるものとする。

9. 硫酸ナトリウムによる安定性の試験は、JIS A 1122 (硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験方法)の規定によるものとする。この場合、操作を5回繰り返したときの細骨材及び粗骨材の損失重量(百分率)の限度は一般に細骨材が10%、粗骨材は12%とするものとする。

### 2-3-3 アスファルト舗装用骨材

1. 砕石・再生砕石及び鉄鋼スラグの粒度は、表2-6、7、8の規格に適合するものとする。

表2-6 砕石の粒度

<div> <div>ふるい目の開き</div> <div>粒度範囲(mm)</div> <div>呼び名</div> </div>			ふるいを通るものの質量百分率(%)													
			106mm	75mm	63mm	53mm	37.5 mm	31.5 mm	26.5 mm	19mm	13.2 mm	4.5mm	2.36 mm	1.18 mm	425 $\mu$ m	75 $\mu$ m
単 粒 度 砕 石	S-80(1号)	80~60	100	85~ 100	0~ 15											
	S-60(2号)	60~40		100	85~ 100		0~ 15									
	S-40(3号)	40~30				100	85~ 100	0~ 15								
	S-30(4号)	30~20					100	85~ 100	-	0~ 15						
	S-20(5号)	20~13							100	85~ 100	0~ 15					
	S-13(6号)	13~5								100	85~ 100	0~ 15				
	S-5(7号)	5~2.5									100	85~ 100	0~ 25	0~ 5		
粒 度 調 整 砕 石	M-40	40~0				100	95~ 100	-	-	60~ 90	-	30~ 65	20~ 50	-	10~ 30	2~ 10
	M-30	30~0					100	95~ 100	-	60~ 90	-	30~ 65	20~ 50	-	10~ 30	2~ 10
	M-25	25~0						100	95~ 100	-	55~ 85	30~ 65	20~ 50	-	10~ 30	2~ 10
ク ラ ッ シ ヤ ラ ン	C-40	40~0				100	95~ 100	-	-	50~ 80	-	15~ 40	5~ 25			
	C-30	30~0					100	95~ 100	-	55~ 85	-	15~ 45	5~ 30			
	C-20	20~0							100	95~ 100	60~ 90	20~ 50	10~ 35			

〔注1〕呼び名別粒度の規定に適合しない粒度の砕石であっても、他の砕石、砂、石粉等と合成したときの粒度が、所要の混合物の骨材粒度に適合すれば使用することができる。



〔注２〕花こう岩やけつ岩などの碎石で、加熱によってすりへり減量が特に大きくなった  
り破壊したりするものは表層に用いてはならない。

**表２－７ 再生碎石の粒度**

粒 度 範 囲 (呼び名)		40～0 (R C－40)	30～0 (R C－30)	20～0 (R C－20)
ふるい目 の 開 き	通			
	過			
	質			
	量			
	百			
	分			
	率			
	(%)			
	53mm	100		
	37.5mm	95～100	100	
	31.5mm	—	95～100	
	26.5mm	—	—	100
	19mm	50～80	55～85	95～100
	13.2mm	—	—	60～90
	4.75mm	15～40	15～45	20～50
	2.36mm	5～25	5～30	10～35

〔注〕再生骨材の粒度は、モルタル粒などを含んだ解砕されたままの見  
かけの骨材粒度を使用する。

**表２－８ 再生粒度調整碎石の粒度**

粒 度 範 囲 (呼び名)		40～0 (R M－40)	30～0 (R M－30)	25～0 (R M－25)
ふるい目 の 開 き	通			
	過			
	質			
	量			
	百			
	分			
	率			
	(%)			
	53mm	100		
	37.5mm	95～100	100	
	31.5mm	—	95～100	100
	26.5mm	—	—	95～100
	19mm	60～90	60～90	—
	13.2mm	—	—	55～85
	4.75mm	30～65	30～65	30～65
	2.36mm	20～50	20～50	20～50
	425 μ m	10～30	10～30	10～30
	75 μ m	2～10	2～10	2～10

〔注〕再生骨材の粒度は、モルタル粒などを含んだ解砕されたままの見かけの骨材粒度  
を使用する。

２．碎石の材質については、表２－９によるものとする。

**表２－９ 安定性試験の限度**

用 途	表層・基層	上層路盤
損失量 %	12以下	20以下

〔注〕試験方法は、「舗装調査・試験法便覧〔第２分冊〕」  
の「A004硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験  
方法」による。

3. 表層や基層に用いる砕石の有害物質量の限度は、表2-10の規格に適合するものとする。

**表2-10 有害物質含有量の限度**

含 有 物	含有量 (全試料に対する質量百分率%)
粘土，粘土塊	0.25以下
軟らかい石片 注)	5.0以下
細長いあるいは扁平な石片 注)	10.0以下
注) 試験方法は、「舗装調査・試験法便覧」を参照する。	

4. 砕石の品質は、表2-11の規格に適合するものとする。

**表2-11 砕石の品質**

用 途	表 層 ・ 基 層	上 層 路 盤
項 目		
表 乾 比 重	2.45 以上	—
吸 水 率 %	3.0 以下	—
すり減り減量 %	30 以下 注)	50以下

〔注1〕 表層，基層用砕石のすり減り減量試験は、粒径13.2～4.75mmのものについて実施する。

〔注2〕 上層路盤用砕石については主として使用する粒径について行えばよい。

5. 鉄鋼スラグは、硫黄分による黄濁水が流出せず、かつ、細長いあるいは扁平なもの、ごみ、泥、有機物などを有害量含まないものとする。その種類と用途は表2-12によるものとする。また、単粒度製鋼スラグ、クラッシュラン製鋼スラグ及び水硬性粒度調整鉄鋼スラグの粒度規格はJIS A 5015（道路用鉄鋼スラグ）によるものとし、その他は砕石の粒度に準ずるものとする。

**表2-12 鉄鋼スラグの種類と主な用途**

名 称	呼び名	用 途
単 粒 度 製 鋼 ス ラ グ	SS	加熱アスファルト混合物用
ク ラ ッ シ ャ ラ ン 製 鋼 ス ラ グ	CSS	瀝青安定処理（加熱混合）用
粒 度 調 整 鉄 鋼 ス ラ グ	MS	上層路盤材
水 硬 性 粒 度 調 整 鉄 鋼 ス ラ グ	HMS	上層路盤材
ク ラ ッ シ ャ ラ ン 鉄 鋼 ス ラ グ	CS	下層路盤材

6. 鉄鋼スラグの規格は、表2-13の規格に適合するものとする。

**表2-13 鉄鋼スラグの規格**

呼び名	修 正 C B R %	一軸圧縮 強 さ MPa	単位容積 質 量 kg/l	呈 色 判定試験	水浸膨張比 %	エージング 期 間
-----	-------------------	--------------------	---------------------	-------------	------------	--------------

MS	80以上	—	1.5以上	呈色なし	1.5以下	6ヵ月以上
HMS	80以上	1.2以上	1.5以上	呈色なし	1.5以下	6ヵ月以上
CS	30以上	—	—	呈色なし	1.5以下	6ヵ月以上

〔注1〕呈色判定は、高炉徐冷スラグを用いた鉄鋼スラグに適用する。

〔注2〕水浸膨張比は、製鋼スラグを用いた鉄鋼スラグに適用する。

7. 製鋼スラグの規格は、表2-14の規格に適合するものとする。

**表2-14 製鋼スラグの規格**

呼び名	表乾密度 (g/cm <sup>3</sup> )	吸水率 (%)	すりへり 減量 (%)	水浸膨張比 (%)	エージング 期 間
CSS	—	—	50以下	2.0以下	3ヵ月以上
SS	2.45以上	3.0以下	30以下	2.0以下	3ヵ月以上

〔注1〕試験方法は、「舗装調査・試験法便覧」を参照する。

〔注2〕エージングとは高炉スラグの黄濁水の発生防止や、製鋼スラグの中に残った膨張性反応物質（遊離石灰）を反応させるため、鉄鋼スラグを屋外に野積みし、安定化させる処理をいう。エージング期間の規定は、製鋼スラグを用いた鉄鋼スラグにのみ適用する

〔注3〕水浸膨張比の規定は、製鋼スラグを用いた鉄鋼スラグにのみ適用する。

8. 砂は、天然砂、人工砂、スクリーニングス（碎石ダスト）などを用い、粒度は混合物に適合するものとする。

9. スクリーニングス（碎石ダスト）の粒度は、表2-15の規格に適合するものとする。

**表2-15 スクリーニングスの粒度範囲**

種類	ふるい目の開き 呼び名	ふるいを通るものの質量百分率 %					
		4.75mm	2.36mm	600μm	300μm	150μm	75μm
スクリーニングス	F. 2.5	100	85～100	25～55	15～40	7～28	0～20

(JIS A 5001 1995 (道路用碎石))

#### 2-3-4 アスファルト用再生骨材

再生加熱アスファルト混合物に用いるアスファルトコンクリート再生骨材の品質は表2-16の規格に適合するものとする。

**表2-16 アスファルトコンクリート再生骨材の品質**

項 目 名 称	旧アスファルト 含有量 (%)	旧アスファルト 針入度 (25℃) 1/10mm	骨材の微粒分量試験で75μmを通過する量 (%)
規格値	3.8以上	20以上	5以下

〔注1〕各項目は13～0mmの粒度区分のものに適用する。

〔注2〕アスファルトコンクリート再生骨材の旧アスファルト含有量及び骨

材の微粒分量試験で75 $\mu$ mを通過する量は、アスファルトコンクリート再生骨材の乾燥質量に対する百分率で表したものである。

[注3] 骨材の微粒分量試験はJIS A 1103（骨材の微粒分量試験方法）により、試料のアスファルトコンクリート再生骨材の水洗い前の75 $\mu$ mふるいにとどまるものと、水洗い後の75 $\mu$ mふるいにとどまるものを乾燥若しくは60℃以下の乾燥炉で乾燥し、その質量差を求めたものである（旧アスファルトはアスファルトコンクリート再生骨材の質量に含まれるが、75 $\mu$ mふるい通過分に含まれる旧アスファルトは微量なので、骨材の微粒分量試験で失われる量の一部として扱う）。

### 2-3-5 フィラー

1. フィラーは、石灰岩やその他の岩石を粉砕した石粉、消石灰、セメント、回収ダスト及びフライアッシュなどを用いる。石灰岩を粉砕した石粉の水分量は1.0%以下のものを使用する。
2. 石灰岩を粉砕した石粉、回収ダスト及びフライアッシュの粒度範囲は表2-17の規格に適合するものとする。

**表2-17 石粉、回収ダスト及びフライアッシュの粒度範囲**

ふるい目 ( $\mu$ m)	ふるいを通るものの質量百分率 (%)
600	100
150	90～100
75	70～100

3. フライアッシュ、石灰岩以外の岩石を粉砕した石粉をフィラーとして用いる場合は表2-18に適合するものとする。

**表2-18 フライアッシュ、石灰岩以外の岩石を粉砕した石粉をフィラーとして使用する場合の規定**

項 目	規 定
塑性指数 (PI)	4 以下
フロー試験 %	50 以下
吸水膨張 %	3 以下
剥離試験	1/4 以下

4. 消石灰をはく離防止のためにフィラーとして使用する場合の品質は、JIS R 9001（工業用石灰）に規定されている生石灰（特号及び1号）、消石灰（特号及び1号）の規格に適合するものとする。
5. セメントをはく離防止のためにフィラーとして使用する場合の品質は、JIS R 5210（ポルトランドセメント）、及びJIS R 5211（高炉セメント）の規格に適合するものとする。

## 2-3-6 安定材

1. 瀝青安定処理に使用する瀝青材料の品質は、表2-19に示す舗装用石油アスファルトの規格及び表2-20に示す石油アスファルト乳剤の規格に適合するものとする。

表2-19 舗装用石油アスファルトの規格

種 類 項 目	40～60	60～80	80～100	100～120
針 入 度 ( 2 5 ℃ ) 1 / 1 0 m m	40を超え 60以下	60を超え 80以下	80を超え 100以下	100を超え 120以下
軟 化 点 ℃	47.0～55.0	44.0～52.0	42.0～50.0	40.0～50.0
伸 度 ( 1 5 ℃ ) c m	10以上	100以上	100以上	100以上
ト ル エ ン 可 溶 分 %	99.0以上	99.0以上	99.0以上	99.0以上
引 火 点 ℃	260以上	260以上	260以上	260以上
薄 膜 加 熱 質 量 変 化 率 %	0.6以下	0.6以下	0.6以下	0.6以下
薄 膜 加 熱 針 入 度 残 留 率 %	58以上	55以上	50以上	50以上
蒸 発 後 の 針 入 度 比 %	110以下	110以下	110以下	110以下
密 度 ( 1 5 ℃ ) g / c m <sup>3</sup>	1.000以上	1.000以上	1.000以上	1.000以上

〔注〕各種類とも120℃、150℃、180℃のそれぞれにおける動粘度を試験表に付記しなければならない。

表2-20 石油アスファルト乳剤の規格

種類及び記号 項 目		カチオン乳剤							ノニオン 乳 剤
		PK－1	PK－2	PK－3	PK－4	MK－1	MK－2	MK－3	MN－1
エングラード度（25℃）		3 ～15		1 ～6		3 ～40			2 ～30
ふるい 残 留 分（％） （1.18mm）		0.3以下							0.3 以下
付 着 度		2／3以上				—			—
粗粒度骨材混合性		—				均等で あること	—		—
密粒度骨材混合性		—					均 等 で あ る こ と	—	—
土まじり骨材混合性 （％）		—						5 以下	—
セメント混合性（％）		—							1.0 以下
粒子の電荷		陽（＋）							—
蒸発残留分（％）		60以上		50以上		57以上			57以上
蒸 発 残 留 物	針 入 度（25℃） （1/10mm）	100 を超え 200以下	150 を超え 300以下	100 を超え 300以 下	60 を超え 150以下	60 を超え 200以下		60 を超え 300以 下	60 を超え 300以下
	トルエン可溶分（％）	98以上				97以上			97以上
貯 蔵 安 定 度 （24hr）（質量％）		1 以下							1 以下
凍結安定度 （－5℃）		—	粗粒子、塊 のないこと	—					—
		温暖期 浸透用	寒冷期 浸透用	プライムコ ート用	タックコート用	粗粒度 骨材混	密粒骨度 材混合用	土混り 骨材混	セメント ・乳剤

主な用途	及び 表面 処理用	及び 表面 処理用	及び セメント用 安定 処理層 養生		合用		合用	安定 処理剤
------	-----------------	-----------------	--------------------------------	--	----	--	----	-----------

JIS K 2208（石油アスファルト乳剤）

〔注〕種類記号の説明 P：浸透用、M：混合用

エングラード度が15以下の乳剤についてはJIS K 2208 6.3によって求め、15を超える乳剤についてはJIS K 2208 6.4によって粘度を求め、エングラード度に換算する。

2. セメント安定処理に使用するセメントは、JISに規定されているJIS R 5210（ポルトランドセメント）、及びJIS R 5211（高炉セメント）の規格に適合するものとする。
3. 石灰安定処理に使用する石灰は、JIS R 9001（工業用石灰）に規定にされる生石灰（特号及び1号）、消石灰（特号及び1号）、又はそれらを主成分とする石灰系安定材に適合するものとする。

## 第4節 木材

### 2-4-1 一般事項

1. 工事に使用する木材は、有害な腐れ、割れ等の欠陥のないものとする。
2. **設計図書**に示す寸法の表示は、製材においては仕上がり寸法とし、素材については特に明示する場合を除き末口寸法とするものとする。
3. 請負者は、防腐処理を施した木材を工事に使用する場合は、監督員の承諾を得なければならない。

## 第5節 鋼材

### 2-5-1 一般事項

1. 工事に使用する鋼材は、さび、くされ等変質のないものとする。
2. 請負者は、鋼材をじんあいや油類等で汚損しないようにするとともに、防蝕しなければならない。

### 2-5-2 構造用圧延鋼材

構造用圧延鋼材は、以下の規格に適合するものとする。

JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）

JIS G 3106（溶接構造用圧延鋼材）

JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）

JIS G 3114（溶接構造用耐候性熱間圧延鋼材）

### 2-5-3 軽量形鋼

軽量形鋼は、以下の規格に適合するものとする。

JIS G 3350（一般構造用軽量形鋼）

### 2-5-4 鋼管

鋼管は、以下の規格に適合するものとする。

JIS G 3444（一般構造用炭素鋼鋼管）

JIS G 3452（配管用炭素鋼鋼管）

JIS G 3457 (配管用アーク溶接炭素鋼鋼管)

JIS G 3466 (一般構造用角形鋼管)

JIS G 5526 (ダクタイル鋳鉄管)

JIS G 5527 (ダクタイル鋳鉄異形管)

#### **2-5-5 鋳鉄品、鋳鋼品及び鍛鋼品**

鋳鉄品、鋳鋼品及び鍛鋼品は、以下の規格に適合するものとする。

JIS G 5501 (ねずみ鋳鉄品)

JIS G 5101 (炭素鋼鋳鋼品)

JIS G 3201 (炭素鋼鍛鋼品)

JIS G 5102 (溶接構造用鋳鋼品)

JIS G 5111 (構造用高張力炭素鋼及び低合金鋼鋳鋼品)

JIS G 4051 (機械構造用炭素鋼鋼材)

JIS G 5502 (球状黒鉛鋳鉄品)

#### **2-5-6 ボルト用鋼材**

ボルト用鋼材は、以下の規格に適合するものとする。

JIS B 1180 (六角ボルト)

JIS B 1181 (六角ナット)

JIS B 1186 (摩擦接合用高力六角ボルト・六角ナット・平座金のセット)

JIS B 1256 (平座金)

JIS B 1198 (頭付きスタッド)

JIS M 2506 (ロックボルト及びその構成部品)

トルシア形高力ボルト・六角ナット・平座金のセット (日本道路協会)

支圧接合用打込み式高力ボルト・六角ナット・平座金暫定規格 (日本道路協会)

#### **2-5-7 溶接材料**

溶接材料は、以下の規格に適合するものとする。

JIS Z 3211 (軟鋼用被覆アーク溶接棒)

JIS Z 3212 (高張力鋼用被覆アーク溶接棒)

JIS Z 3214 (耐候性鋼用被覆アーク溶接棒)

JIS Z 3312 (軟鋼及び高張力鋼用マグ溶接ソリッドワイヤ)

JIS Z 3313 (軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用アーク溶接フラックス入りワイヤ)

JIS Z 3315 (耐候性鋼用炭酸ガスアーク溶接ソリッドワイヤ)

JIS Z 3320 (耐候性鋼用炭酸ガスアーク溶接フラックス入りワイヤ)

JIS Z 3351 (炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶接ソリッドワイヤ)

JIS Z 3352 (炭素鋼及び低合金鋼用サブマージアーク溶接フラックス)

#### **2-5-8 鉄線**

鉄線は、以下の規格に適合するものとする。

JIS G 3532 (鉄線)

#### **2-5-9 ワイヤロープ**

ワイヤロープは、以下の規格に適合するものとする。

JIS G 3525 (ワイヤロープ)

#### 2-5-10 プレストレストコンクリート用鋼材

プレストレストコンクリート用鋼材は、以下の規格に適合するものとする。

JIS G 3536 (P C 鋼線及びP C 鋼より線)

JIS G 3109 (P C 鋼棒)

JIS G 3137 (細径異形P C 鋼棒)

JIS G 3502 (ピアノ線材)

JIS G 3506 (硬鋼線材)

#### 2-5-11 鉄網

鉄網は、以下の規格に適合するものとする。

JIS G 3551 (溶接金網及び鉄筋格子)

JIS G 3552 (ひし形金網)

#### 2-5-12 鋼製ぐい及び鋼矢板

鋼製ぐい及び鋼矢板は、以下の規格に適合するものとする。

JIS A 5523 (溶接用熱間圧延鋼矢板)

JIS A 5525 (鋼管ぐい)

JIS A 5526 (H形鋼ぐい)

JIS A 5528 (熱間圧延鋼矢板)

JIS A 5530 (鋼管矢板)

#### 2-5-13 鋼製支保工

鋼製支保工は、以下の規格に適合するものとする。

JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材)

JIS B 1180 (六角ボルト)

JIS B 1181 (六角ナット)

JIS B 1186 (摩擦接合用高力六角ボルト・六角ナット・平座金のセット)

#### 2-5-14 鉄線じゃかご

鉄線じゃかごは、以下の規格及び品質に準ずるものとする。亜鉛アルミニウム合金めっき鉄線を使用する場合は、アルミニウム含有率10%，めっき付着量300g/m<sup>2</sup>以上のめっき鉄線を使用するものとする。

JIS A 5513 (じゃかご)

#### 2-5-15 コルゲートパイプ

コルゲートパイプは、以下の規格に適合するものとする。

JIS G 3471 (コルゲートパイプ及びコルゲートセクション)

#### 2-5-16 ガードレール (路側用, 分離帯用, 歩道用)

ガードレール (路側用, 分離帯用, 歩道用) は、以下の規格に適合するものとする。

(1) ビーム (袖ビーム含む)

JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材)

JIS G 3454 (圧力配管用炭素鋼鋼管)

(2) 支柱

JIS G 3444 (一般構造用炭素鋼鋼管)

JIS G 3466 (一般構造用角形鋼管)

(3) ブラケット



JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材)

(4) ボルトナット

JIS B 1180 (六角ボルト)

JIS B 1181 (六角ナット)

ブラケット取付け用ボルト (ねじの呼びM20) は4.6とし、ビーム継手用及び取付け用ボルト (ねじの呼びM16) は6.8とするものとする。

**2-5-17 ガードケーブル (路側用, 分離帯用)**

ガードケーブル (路側用, 分離帯用) は、以下の規格に適合するものとする。

(1) ケーブル

JIS G 3525 (ワイヤロープ)

ケーブルの径は18mm, 構造は3×7g/Oとする。なお、ケーブル一本当たりの破断強度は160kN以上の強さを持つものとする。

(2) 支柱

JIS G 3444 (一般構造用炭素鋼鋼管)

(3) ブラケット

JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材)

(4) 索端金具

ソケットはケーブルと調整ねじを取付けた状態において、ケーブルの一本当たりの破断強度以上の強さを持つものとする。

(5) 調整ねじ

強度は、ケーブルの破断強度以上の強さを持つものとする。

(6) ボルトナット

JIS B 1180 (六角ボルト)

JIS B 1181 (六角ナット)

ブラケット取付け用ボルト (ねじの呼びM12) 及びケーブル取付け用ボルト (ねじの呼びM10) はともに4.6とするものとする。

**2-5-18 ガードパイプ (歩道用, 路側用)**

ガードパイプ (歩道用, 路側用) は、以下の規格に適合するものとする。

(1) パイプ

JIS G 3444 (一般構造用炭素鋼鋼管)

(2) 支柱

JIS G 3444 (一般構造用炭素鋼鋼管)

(3) ブラケット

JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材)

(4) 継手

JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材)

JIS G 3444 (一般構造用炭素鋼鋼管)

(5) ボルトナット

JIS B 1180 (六角ボルト)

JIS B 1181 (六角ナット)

ブラケット取付け用ボルト (ねじの呼びM16) は4.6とし、継手用ボルト (ねじの呼びM

16〔種別A p〕M14〔種別B p 及びC p〕は6.8とする。

#### 2-5-19 ボックスビーム（分離帯用）

ボックスビーム（分離帯用）は、以下の規格に適合するものとする。

(1) ビーム

JIS G 3466（一般構造用角形鋼管）

(2) 支柱

JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）

(3) パドル及び継手

JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）

(4) ボルトナット

JIS B 1180（六角ボルト）

JIS B 1181（六角ナット）

パドル取付け用ボルト（ねじの呼びM16）及び継手用ボルト（ねじの呼びM20）はともに6.8とする。

#### 2-5-20 ロックネット

ロックネットは、以下の規格に適合するものとする。

(1) 支柱及び付属品

JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）

(2) 金網

JIS G 3552（ひし形金網）

(3) ワイヤロープ

JIS G 3535（ワイヤロープ）

ケーブルの構造は  $2 \times 7 \text{ g} / \text{O}$

(4) ワイヤクリップ

JIS B 2809（ワイヤクリップ）

(5) クロスクリップ

JIS B 3101（一般構造用圧延鋼材）

(6) 結合コイル

JIS G 3537（亜鉛めっき鋼より線）

#### 2-5-21 ストンガード

ストンガードは、以下の規格に適合するものとする。

(1) 支柱及び付属品

JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）

(2) 金網

JIS G 3552（ひし形金網）

(3) ワイヤロープ

JIS G 3525（ワイヤロープ）

ケーブルの構造は  $3 \times 7 \text{ g} / \text{O}$  とする。ただし、張りロープの構造は  $6 \times 7 \text{ g} / \text{O}$  とする。

(4) ワイヤクリップ

JIS B 2809（ワイヤクリップ）

(5) ワイヤチャック

JIS G 5502 (球状黒鉛鑄鉄品)

## 第6節 セメント及び混和材料

### 2-6-1 一般事項

1. 工事に使用するセメントは、普通ポルトランドセメントを使用するものとし、他のセメント及び混和材料を使用する場合は、**設計図書**によるものとする。
2. 請負者は、セメントを防湿的な構造を有するサイロ又は倉庫に、品種別に区分して貯蔵しなければならない。
3. セメントを貯蔵するサイロは、底にたまって出ない部分ができないような構造とするものとする。
4. 請負者は、貯蔵中に塊状になったセメント、又は湿気を受けた疑いのあるセメント、その他異常を認めたセメントの使用に当たっては、これを用いる前に試験を行い、その品質を確かめなければならない。
5. 請負者は、セメントの貯蔵に当たって温度、湿度が過度に高くないようにしなければならない。
6. 請負者は、混和剤に、ごみ、その他の不純物が混入しないよう、液状の混和剤は分離したり変質したり凍結しないよう、また、粉末状の混和剤は吸湿したり固結したりしないように、これを貯蔵しなければならない。
7. 請負者は、貯蔵中に前項に示す分離・変質等が生じた混和剤やその他異常を認めた混和剤について、これらを用いる前に試験を行い、性能が低下していないことを確かめなければならない。
8. 請負者は、混和材を防湿的なサイロ又は、倉庫等に品種別に区分して貯蔵し、入荷の順にこれを用いなければならない。
9. 請負者は、貯蔵中に吸湿により固結した混和材、その他異常を認めた混和材の使用に当たって、これを用いる前に試験を行い、その品質を確かめなければならない。

### 2-6-2 セメント

1. セメントは表2-21の規格に適合するものとする。

表2-21 セメントの種類

JIS番号	名 称	区 分	摘 要
R 5210	ポルトランドセメント	(1) 普通ポルトランド (2) 早強ポルトランド (3) 中庸熱ポルトランド (4) 超早強ポルトランド (5) 低熱ポルトランド (6) 耐硫酸塩ポルトランド	低アルカリ形については付属書による 〃 〃 〃 〃 〃
R 5211	高炉セメント	(1) A種高炉 (2) B種高炉 (3) C種高炉	高炉スラグの分量(質量%) 5を超え30以下 30を超え60以下 60を超え70以下
R 5212	シリカセメント	(1) A種シリカ	シリカ質混合材の分量(質量%) 5を超え10以下

		(2) B 種 シリカ (3) C 種 シリカ	10 を 超 え 20 以下 20 を 超 え 30 以下
R 5213	フライアッシュ セメント	(1) A 種 フライアッシュ (2) B 種 フライアッシュ (3) C 種 フライアッシュ	フライアッシュ分量 (質量%) 5 を 超 え 10 以下 10 を 超 え 20 以下 20 を 超 え 30 以下
R 5214	エコセメント	(1) 普通エコセメント (2) 速硬エコセメント	塩化物イオン量 (質量%) 0.1 以下 0.5 以上 1.5 以下

2. コンクリート構造物に使用する普通ポルトランドセメントは、次項以降の規定に適合するものとする。なお、小規模工種で、1工種当たりの総使用量が10m<sup>3</sup>未満の場合は、この項の適用を除外することができる。
3. 普通ポルトランドセメントの品質は、本条4項に示した試験方により試験し、表2-22の規格に適合するものとする。

**表2-22 普通ポルトランドセメントの品質**

品 質		規 格
比 表 面 積 cm <sup>2</sup> /g		2,500 以上
凝 結 h	始 発	1 以上
	終 結	10 以下
安 定 性	パット法	良
	ルシャチリエ法 m	10以下
圧 縮 強 さ N/mm <sup>2</sup>	3 d	12.5 以上
	7 d	22.5 以上
	28d	42.5 以上
水 和 熱 cal/g(J/g)	7 d	350 以下
	28d	400 以下
酸 化 マ グ ネ シ ウ ム %		5.0 以下
三 酸 化 硫 黄 %		3.0 以下
強 熱 減 量 %		3.0 以下
全 アルカリ (Na o eq) %		0.75 以下
塩 化 物 イ オ ン %		0.035 以下

(注) 全アルカリ(Na o eq)の算出は、JIS R 5210(ポルトランドセメント)付属書ポルトランドセメント(低アルカリ形)による。

4. 試験方法は、JIS R 5201(セメントの物理試験方法)、JIS R 5202(ポルトランドセメント化学分析方法)、JIS R 5203(セメントの水和熱測定方法(溶解熱方法)及びJIS R 5204(セメントの蛍光X線分析方法)の規定によるものとする。
5. 原材料、製造方法、検査、包装及び表示は、JIS R 5210(ポルトランドセメント)の規定によるものとする。

### 2-6-3 混和材料

1. 混和材として用いるフライアッシュは、JIS A 6201(コンクリート用フライアッシュ)の規格に適合するものとする。

2. 混和材として用いるコンクリート用膨張材は、JIS A 6202（コンクリート用膨張材）の規格に適合するものとする。
3. 混和材として用いる高炉スラグ微粉末は、JIS A 6206（コンクリート用高炉スラグ微粉末）の規格に適合するものとする。
4. 混和剤として用いる AE 剤，減水剤，AE減水剤，高性能AE減水剤，高性能減水剤，流動化剤及び硬化促進剤は、JIS A 6204（コンクリート用化学混和剤）の規格に適合するものとする。
5. 急結剤は、**JSCE-D 102**に適合するものとする。

#### 2-6-4 コンクリート用水

1. コンクリートに使用する練混水は、上水道又はJIS A 5308（レディーミクストコンクリート）付属書3に適合したものでなければならない。また、養生水は、油，酸，塩類等コンクリートの表面を侵す物質を有害量含んではならない。
2. 請負者は、鉄筋コンクリートには、海水を練りませず水として使用してはならない。ただし、用心鉄筋を配置しない無筋コンクリートには海水を用いても良い。

### 第7節 セメントコンクリート製品

#### 2-7-1 一般事項

1. セメントコンクリート製品は有害なひび割れ等損傷のないものでなければならない。
2. セメントコンクリート中の塩化物含有量は、コンクリート中に含まれる塩化物イオンの総量で表すものとし、練りませず時の全塩化物イオンは $0.30\text{kg}/\text{m}^3$ 以下とする。なお、これを超えるものを使用する場合は、監督員の**承諾**を得なければならない。

請負者は、セメントコンクリート製品の使用に当たって『**アルカリ骨材反応抑制対策について（通知）**』（平成14.9.26建設第717号）及び『**「アルカリ骨材反応抑制対策について」の運用について（通知）**』（平成14.9.26建設第720号）を遵守し、アルカリ骨材反応抑制対策の適合を**確認**し、**確認**した資料を監督員に**提出**しなければならない。

#### 2-7-2 セメントコンクリート製品

セメントコンクリート製品は次の規格に適合するもの又はこれと同等以上の品質を有するものでなければならない。

- JIS A 5361（プレキャストコンクリート製品一種類，製品の呼び方及び表示の通則）
- JIS A 5364（プレキャストコンクリート製品一材料及び製造方法の通則）
- JIS A 5365（プレキャストコンクリート製品一検査方法通則）
- JIS A 5371（プレキャスト無筋コンクリート製品）
- JIS A 5372（プレキャスト鉄筋コンクリート製品）
- JIS A 5373（プレキャストプレストレストコンクリート製品）
- JIS A 5406（建築用コンクリートブロック）
- JIS A 5506（下水道用マンホールふた）

### 第8節 瀝青材料

#### 2-8-1 一般瀝青材料

1. 舗装用石油アスファルトは、第2編 2-3-6 安定材の表2-15の規格に適合するものとする。

2. ポリマー改質アスファルトは表2-23の性状に適合するものとする。また、請負者は、プラントミックスタイプについては、使用する舗装用石油アスファルトに改質材料を添加し、その性状が表2-23に示す値に適合していることを**確認**しなければならない。

**表2-23 ポリマー改質アスファルトの標準的性状**

項目	種類	I 型	II 型	III 型		H 型	
	付加記号			III 型-W	III 型-WF	H 型-F	
軟化点	℃	50.0以上	56.0以上	70.0以上		80.0以上	
伸度	(7℃) cm	30以上	—	—		—	—
	(15℃) cm	—	30以上	50以上		50以上	—
タフネス (25℃)	N・m	5.0以上	8.0以上	16以上		20以上	—
テナシティ (25℃)	N・m	2.5以上	4.0以上	—		—	—
粗骨材の剥離面積率	%	—	—	—	5以下	—	—
フラース脆化点	℃	—	—	—	—	-12以下	-12以下
曲げ仕事量 (-20℃)	kPa	—	—	—	—	—	400以上
曲げスティフネス (-20℃)	MPa	—	—	—	—	—	100以下
針入度 (25℃)	1/10mm	40以上					
薄膜加熱質量変化率	%	0.6以下					
薄膜加熱後の針入度残留率	%	65以上					
引火点	℃	260以上					
密度 (15℃)	g/cm <sup>3</sup>	試験表に付記					
最適混合温度	℃	試験表に付記					
最適締固め温度	℃	試験表に付記					

付加記号の略字 W：耐水性 (Water resistance) F：可撓性 (Flexibility)

3. セミブローンアスファルトは、表2-24の規格に適合するものとする。

**表2-24 セミブローンアスファルト (AC-100) の規格**

項 目	規 格 値
粘 度 ( 6 0 ℃ ) P a ・ S	1,000±200
粘 度 ( 1 8 0 ℃ ) m m <sup>2</sup> / S	200以下
薄 膜 加 熱 質 量 変 化 率 %	0.6以下
針 入 度 (25℃) 1 / 10mm	40以上
三 塩 化 エ タ ン 可 溶 分 %	99.0以上
引 火 点 ℃	260以上
密 度 ( 1 5 ℃ ) g / c m <sup>3</sup>	1.000以上
粘度比 (60℃, 薄膜加熱後/加熱前)	5.0以下

〔注1〕 180℃での粘度のほか、140℃、160℃における動粘度を試験表に付記すること。

〔注2〕 試験方法は、舗装調査・試験法便覧を参照する。

4. 硬質アスファルトに用いるアスファルトは表2-25の規格に適合するものとし、硬質アスファルトの性状は表2-26の規格に適合するものとする。

**表2-25 硬質アスファルトに用いるアスファルトの標準的性状**

項目	種類	石油アスファルト 20～40	トリニダッドレイク アスファルト
----	----	-------------------	---------------------

針入度 (25℃)	1/10mm	20を超え40以下	1～4
軟化点	℃	55.0～65.0	93～98
伸度 (25℃)	cm	50以上	—
蒸発質量変化率	%	0.3以下	—
トルエン可溶分	%	99.0以上	52.5～55.5
引火点	℃	260以上	240以上
密度 (15℃)	g/cm <sup>3</sup>	1.00以上	1.38～1.42

〔注〕石油アスファルト20～40の代わりに、石油アスファルト40～60などを使用する場合もある

**表 2-26 硬質アスファルトの標準的性状**

項 目	標準値
針入度 (25℃)	1/10mm 15～30
軟化点	℃ 58～68
伸度 (25℃)	cm 10以上
蒸発質量変化率	% 0.5以下
トルエン可溶分	% 86～91
引火点	℃ 240以上
密度 (15℃)	g/cm <sup>3</sup> 1.07～1.13

5. 石油アスファルト乳剤は表 2-20, 27の規格に適合するものとする。

**表 2-27 ゴム入りアスファルト乳剤の標準的性状**

種類及び記号			PKR-T
項 目			
エングラ度 (25℃)			1～10
セイボルトフロー秒 (50℃)			s
ふるい残留分 (1.18mm)			%
付着度			2/3以上
粒子の電荷			陽( + )
留出油分 (360℃までの)			—
蒸発残留分			%
蒸 発 残 留 物	針入度 (25℃) 1/10mm		60を超え150以下
	軟化点		℃
	タフネス	(25℃) N・m	3.0以上
		(15℃) N・m	—
	テナシティ	(25℃) N・m	1.5以上
		(15℃) N・m	—
貯蔵安定度 (24hr) 質量			%
浸透性			s
凍結安定度 (-5℃)			—

(日本アスファルト乳剤協会規格)

6. グースアスファルトに使用するアスファルトは、表 2-25に示す硬質アスファルトの規格に適合するものとする。

7. グースアスファルトは表 2-26の規格を標準とするものとする。

## 2-8-2 その他の瀝青材料

その他の瀝青材料は、以下の規格に適合するものとする。

JIS A 6005（アスファルトルーフィングフェルト）

JIS K 2439（クレオソート油，加工タール，タールピッチ）

## 2-8-3 再生用添加剤

再生用添加剤の品質は，労働安全衛生法施行令に規定されている特定化学物質を含まないものとする。

# 第9節 芝及びそだ

## 2-9-1 芝（姫高麗芝，高麗芝，野芝，人工植生芝）

1. 芝は成育が良く緊密な根茎を有し，茎葉の萎縮，徒長，むれ，病虫害等のないものとする。
2. 請負者は，芝を切取り後，すみやかに運搬するものとし，乾燥，むれ，傷み，土くずれ等のないものとしなければならない。

## 2-9-2 そだ

そだに用いる材料は，針葉樹を除く堅固でじん性に富むかん木とするものとする。

# 第10節 目地材料

## 2-10-1 注入目地材

1. 注入目地材は，コンクリート版の膨張，収縮に順応し，コンクリートとよく付着し，しかもひび割れが入らないものとする。
2. 注入目地材は，水に溶けず，また水密性のものとする。
3. 注入目地材は，高温時に流れ出ず，低温時にも衝撃に耐え，土砂等異物の侵入を防げ，かつ，耐久的なものとする。
4. 注入目地材で加熱施工式のものは，加熱したときに分離しないものとする。

## 2-10-2 目地板

目地板は，コンクリートの膨張収縮に順応し，かつ耐久性に優れたものとする。

# 第11節 塗料

## 2-11-1 一般事項

1. 請負者は，J I Sの規格に適合する塗料を使用するものとし，
2. 請負者は，塗料は工場調合したものを用いなければならない。
3. 請負者は，さび止めに使用する塗料は，油性系さび止め塗料とするものとする。
4. 請負者は，道路標識の支柱のさび止め塗料若しくは，下塗塗料については以下の規格に適合したもの，又はその品質について監督員の承諾を得たものを使用しなければならない。

JIS K 5621（一般用さび止めペイント）

JIS K 5622（鉛丹さび止めペイント）

JIS K 5623（亜酸化鉛さび止めペイント）

JIS K 5624（塩基性クロム酸鉛さび止めペイント）

JIS K 5625（シアナミド鉛さび止めペイント）

JIS K 5627（ジンクロメートさび止めペイント）



JIS K 5628（鉛酸ジンククロメートさび止めペイント）

JIS K 5674（鉛・クロムフリーさび止めペイント）

5. 請負者は、塗料を、直射日光を受けない場所に保管し、その取扱いは関係諸法令、諸法規を遵守して行わなければならない。なお、開缶後に、請負者は、十分に攪拌した上、すみやかに使用しなければならない
6. 塗料の有効期限は、ジンクリッチペイントの亜鉛粉末は、製造後6ヶ月以内、その他の塗料は製造後12ヶ月以内とするものとし、請負者は、有効期限を経過した塗料は使用してはならない。

## 第12節 道路標識及び区画線

### 2-12-1 道路標識

標識板、支柱、補強材、取付金具、反射シートの品質は、以下の規格に適合するものとする。

#### （1）標識板

JIS G 3131（熱間圧延軟鋼板及び鋼帯）

JIS G 3141（冷間圧延鋼板及び鋼帯）

JIS K 6744（ポリ塩化ビニル被覆金属板）

JIS H 4000（アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び条）

JIS K 6718（プラスチック-メタクリル樹脂板）

ガラス繊維強化プラスチック板（F．R．P）

#### （2）支柱

JIS G 3452（配管用炭素鋼管）

JIS G 3444（一般構造用炭素鋼鋼管）

JIS G 3192（熱間圧延形鋼の形状、寸法、質量及びその許容差）

JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）

#### （3）補強材及び取付金具

JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）

JIS G 3131（熱間圧延軟鋼板及び鋼帯）

JIS G 3141（冷間圧延鋼板及び鋼帯）

JIS H 4100（アルミニウム及びアルミニウム合金押出型材）

#### （4）反射シート

標示板に使用する反射シートは、ガラスビーズをプラスチックの中に封入したレンズ型反射シート又は、空気層の中にガラスビーズをプラスチックで覆ったカプセルレンズ型反射シートとし、その性能は表2-26、2-27に示す規格以上のものとする。また、反射シートは、屋外にさらされても、著しい色の変化、ひび割れ、剥れが生じないものとする。なお、表2-28、2-29に示した品質以外の反射シートを用いる場合に、請負者は監督員の**確認**を得なければならない。

表2-28 反射性能（反射シートの再帰反射係数）

	観測角°	入射角°	白	黄	赤	緑	青
封入 レン	12°	5°	70	50	15	9.0	4.0
		30°	30	22	6.0	3.5	1.7

ズ型	20°	5°	50	35	10	7.0	2.0
		30°	24	16	4.0	3.0	1.0
	2°	5°	5.0	3.0	0.8	0.6	0.2
		30°	2.5	1.5	0.4	0.3	0.1

(注) 試験及び測定方法は、JIS Z 9117 (保安用反射シート及びテープ) による。

**表 2-29 反射性能 (反射シートの再帰反射係数)**

	観測角°	入射角°	白	黄	赤	緑	青
カプセルレンズ型	12°	5°	250	170	45	45	20
		30°	150	100	25	25	11
	20°	5°	180	122	25	21	14
		30°	100	67	14	12	8.0
	2°	5°	5.0	3.0	0.8	0.6	0.3
		30°	2.5	1.8	0.4	0.3	0.1

(注) 試験及び測定方法は、JIS Z 9117 (保安用反射シート及びテープ) による。

## 2-12-2 区画線

区画線の品質は以下の規格に適合するものとする。

- JIS K 5665 (路面表示用塗料) 1 種 (トラフィックペイント常温)
- 2 種 (〃 加熱)
- 3 種 1 号 (〃 熔融)

## 第13節 その他

### 2-13-1 エポキシ系樹脂接着剤

エポキシ系樹脂接着剤は、接着、埋込み、打継ぎ、充てん、ライニング注入等は**設計図書**によるものとする。

### 2-13-2 合成樹脂製品

合成樹脂製品は以下の規格に適合するものとする。

- JIS K 6741 (硬質ポリ塩化ビニル管)
- JIS K 6742 (水道用ポリ硬質塩化ビニル管)
- JIS K 6745 (プラスチック-硬質ポリ塩化ビニルシート-タイプ、寸法及び特性-第 1 部：厚さ1mm以上の板)
- JIS K 6761 (一般用ポリエチレン管)
- JIS K 6762 (水道用ポリエチレン二層管)
- JIS K 6773 (ポリ塩化ビニル止水板)
- JIS A 6008 (合成高分子系ルーフィングシート)
- JIS C 8430 (硬質塩化ビニル電線管)

### 2-13-3 路盤紙

1. 路盤紙は、取扱いが容易で吸水しにくく、かつ、コンクリートの打込み又は締め

固めに際し破損するものであってはならない。

2. 路盤紙は以下の規格に合格したものとする。

JIS Z 1702 (包装用ポリエチレンフィルム)

JIS P 3401 (クラフト紙)